

文化財 だより

NO.9

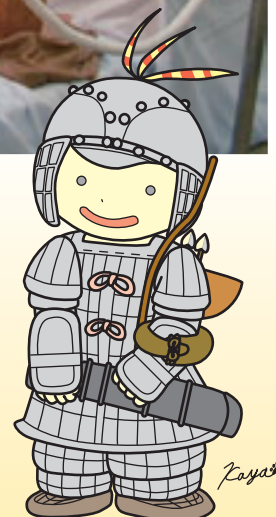
発行●太田市教育委員会 発行年月日●平成23年3月31日 編集●太田市教育委員会文化財課
住所●群馬県太田市粕川町520 電話●0276-20-7090 FAX●0276-52-6080

合併5周年記念埋蔵文化財企画展示

はにコレ2010 “タイムスリップおおた”



合併5周年を記念して、イオンモール太田2階のイオンホールを会場として、埋蔵文化財の企画展示を開催しました。
しもじゆく い せき つめがたまん ど き せらだ
下宿遺跡の爪形文土器（1万年以上前の縄文土器）、世良田
す わ しも い せき じんつはに わ こまがたじんじゃはに わ しゅうせきじょう いえがたはに わ
諏訪下遺跡の人物埴輪、駒形神社埴輪集積場の家型埴輪など、
太田市を代表する貴重な文化財約600点を一堂に集めて公開しました。入場された方々の多くは、太田市で出土した埴輪や土器の多さや素晴らしさに驚かれていたようです。





てん ら し ち どう い せ き

天良七堂遺跡

(新田郡衙)の最新成果

- 調査場所 新田郡衙跡（太田市天良町地内）
新田郡衙（太田市新田小金井町ほか）
- 調査期間 平成22年11月1日から
平成23年1月31日
- 調査面積 約2,000㎡

天良七堂遺跡は、これまでの調査によって、7世紀後半から9世紀の新田郡の役所「新田郡衙」であったことがわかっています。郡衙の中心部分である郡庁は、国内最大の規模であったことがわかり、平成20年7月、「上野国新田郡衙跡」として、国の史跡に指定されました。この後、継続的に確認調査を行い、様々なことがわかっています。平成22年度の新田郡衙跡の発掘調査は、次のような多くの成果をあげることができました。

1 新田郡庁内を区画する溝の発見

新田郡庁の内部に新たに区画溝が発見されました。これにより、創建期（7世紀後半）に約90m四方と国内最大の規模であった郡庁が、最終段階（9世紀）には約60m四方の規模に縮小されていたことがわかりました。

2 新田郡衙の外側を区画する溝の発見

新田郡衙の東西南北方向を区画する溝が発見されました。この発見により、郡衙の周囲が、下の図のように東西約400m、南北約300mの台形の形に区画されていることがわかり、郡衙の敷地が広大であったことが明らかになりました。



1 新田郡庁内を区画する溝（西から）



2 新田郡衙の南側を区画する溝（西から）





3 新田郡衙の南で東山道駅路を発見

新田郡衙の南に隣接した部分で、古代の道路跡が発見されました。この道路跡は、両側に側溝を持つ路面幅約12mの大規模な道路で、東山道駅路と推定されます。東山道駅路は、奈良の都から東北地方へ向かっていた古代の国道です。この発見によって、新田郡衙が東山道駅路に接していたことが明らかになりました。



3 東山道駅路（北から）

4 郡庁内へ向かう通路の発見

新田郡衙の南を区画する溝の北側で、郡庁の正面へ向かう通路の跡が発見されました。この通路は、地面を掘り下げた部分を^{たたし}こめて、非常に硬い路面を造り出していました。郡庁の正面に向かっていることから、正門へ向かう通路であったと考えられます。



4 郡庁内へ向かう通路（南から）

5 新田郡衙初期の正倉（米倉）の発見

新田郡衙では、これまで多くの正倉跡（米を貯えた倉）が発見されていますが、これらのほとんどは礎石の上に建物を建てる構造でした。今回の調査では、郡庁の北部で新たに掘立柱建物という地面に穴を掘って柱を建てる構造の倉の跡が発見されました。この建物跡は、古い時期の正倉と考えられ、初期の正倉が郡庁の北部にあったことが明らかになりました。



5 掘立柱建物跡の正倉（西から）

現地説明会

平成22年12月19日（日）、発掘調査現場の公開を行いました。当日は年末にもかかわらず、339人の方々がお見えになり、発見された溝や建物跡を見学していただきました。



現地説明会の様子



史跡 金山城跡 の最新情報

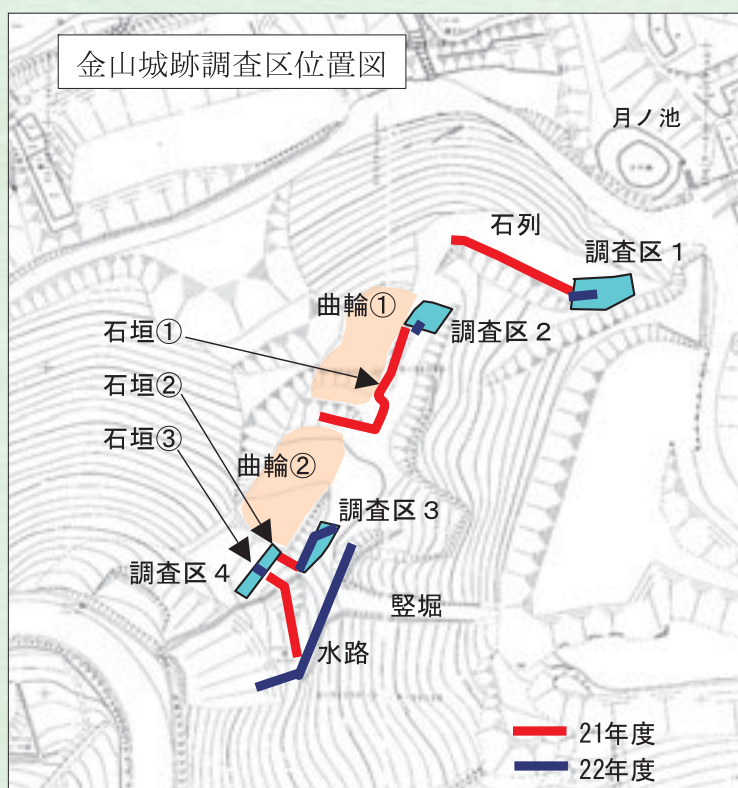
金山城跡発掘調査（月ノ池南周辺）

- 調査場所 太田市金山町
- 調査期間 平成22年11月1日～
平成23年3月24日
- 調査面積 187.21㎡

平成21年度は、大手虎口南西部で確認されていた木戸門より南へ続く通路の確認調査を実施し、南へ下る通路では、縁石と思われる石列（19m）、その下の曲輪①では石垣①、さらにその下の曲輪②では、石敷きされた通路面や石垣②がみつかりました。さらに一番下った南側では、大型の石を積んだ石垣③（10m）が確認されました（下図参照）。そこで、今年度は石列の続きや通路と水路の位置を確認するために、新たな調査区を設定



① 確認された石列の続き（東から）



25mにわたり確認された水路

して確認調査を実施しました。調査区1では、石列の続きがやや湾曲しながら約4mの範囲で確認され、木戸門へと向かう様子が確認できました（写真①）。調査区2では、東側の岩盤と曲輪②との間に水路状の石組みがみつかりました（写真②）。調査区3では、石垣②の北側に南北に続く石垣が東へと曲がりながら11mにわたり確認されました（写真③）。また、石敷きされた通路面と東側の岩盤との間に幅90～135cm、深さ50cmほどの大規模な水路が25mにわたり確認されました。この水路は岩盤を部分的



に掘り、対面に石積みをも1～3段ほど積み上げて造られていました。豎掘の北側で堰（せき）の跡と思われるほぞ穴のような切り込みがみつかりました（写真④）。また、この水路の石積みはほぼ一直線に並ぶように造られていました。水路を下った南端部においては、斜面へと屈折して排水していたこともわかりました。今後は、引き続き通路の正確な位置や排水路の構造、石垣の続きなどを発掘調査によって明らかにし、通路の整備を進めていく予定です。



水路全景（北から）



④ ほぞ穴（左-岩盤、右-石積）



② 曲輪①側で確認された石組（東から）



③ 東へと曲がりを見せた石垣（北から）



穿^{うが}たれたほぞ穴



水路の北端部（北から）



水路内の石組



にったのしょう い せき

え だ やかたあと

史跡新田荘遺跡

江田館跡確認調査

●調査期間 平成22年8月19日～10月22日
江田館跡は、史跡新田荘遺跡（11遺跡）の1つで、太田市新田上江田町にあります。新田荘遺跡の中でも土塁を周囲に廻らせた城館跡として、現在もその風貌をよく留めています。堀ノ内と呼ばれている館の内部においては、今までの発掘調査で、土塁近くに溝があることが確認されていましたが、平成22年度から江田館跡の内容確認調査を計画的に実施することになりました。今年度は、館の内部の土の堆積状況や地形について確認するために、東西・南北方向に幅1mのトレンチを入れて確認調査を実施しました。その結果、館内は中央部より西側に向かって緩やかに下がる地形で、館を造った頃は東側はもう少し高かったことがわかりました。また、中央部においては柱穴と思われる遺構が集中して確認され、井戸の跡なども確認されました。今回の調査結果をもとに、今後は面としての調査を実施していく予定です。



南北トレンチ全景（北から）



江田館跡をとりまく土塁と外堀

金山城保存会

金山城保存会は、金山城や近隣の山城の歴史を学習したり、その歴史的景観を自分たちの手で維持する活動を行っています。草刈りや清掃活動は、現在復元整備が行われている場所を中心に、来訪者に対しての案内や解説を行うボランティアガイドも、団体の人数に応じてグループ分けなどして、きめ細かなガイド展開を実施しています。平成22年度は、猛暑の中での案内も多く、28団体、約800人の方々に金山城のガイドを行いました。生涯学習の一環として会員自身の研修活動も市外の史跡や史跡金山城跡ガイダンス施設などで行われました。



多胡碑記念館での研修風景



史跡金山城内のガイド風景



日ノ池での除草作業風景



史跡金山城跡来訪記念投句 入選作

平成二十二年三月から
平成二十二年五月まで

一般の部

特選

「鍵の手に曲がる城道轉れり」
埼玉県熊谷市 田島 良生 様

佳作

「水温む金山城に井戸セツ」
埼玉県熊谷市 銭屋 照世 様

「老鷲にみらびかれゆく城の跡」
茨城県筑西市 稲野辺竹風 様

ジュニアの部

特選

「金山におにぎりもってお花見だ」
埼玉県蓮田市 佐藤喜和子 様

佳作

「しん緑を楽しみながらおべんとう」
群馬県太田市 高橋 陽拓 様

「風強くドングリころころこがった」
さいたま市緑区 片桐こころ 様

平成二十二年六月から
平成二十二年八月まで

一般の部

特選

「会釈また会釈緑の古城道」
埼玉県熊谷市 田島 良生 様

佳作

「名乗り合う金山城の雨蛙」
群馬県太田市 岩崎 基作 様

「水面にも野にも山にも風薫る」
群馬県太田市 池上 雅夫 様

「蟬時雨木々ざわめくや古戦場」
群馬県太田市 石原恵利子 様

ジュニアの部

特選

「うぐいすといっしょにやまをあるいたよ」
群馬県太田市 はしもとまなせ 様

佳作

「せみの声石だんひびく金山城」
群馬県太田市 田島 陽向 様

「なつやすみスタンプめぐるこじょうあと」
群馬県太田市 松本 蒼生 様

平成二十二年九月から
平成二十二年十一月まで

一般の部

特選

「謙信も攻めし山城木の実降る」
川崎市宮前区 前田 伸夫 様

佳作

「天然の要塞の蟬時雨かな」
埼玉県熊谷市 銭屋 大成 様

「モクセイの香りもうつす月の池」
東京都青梅市 朝原 良子 様

ジュニアの部

特選

「金山のおらばがきらきらおりました」
さいたま市緑区 片桐こころ 様

佳作

「城石に赤く染まるは彼岸花」
群馬県太田市 高橋 陽平 様



おおたんの史跡探検スタンプラリー

太田市に数多く存在する貴重な歴史遺産を、正しく理解・認識し、より身近に感じていただくため、「おおたんの史跡探検スタンプラリー」を実施いたしました。

小中学校の夏休みとなる平成22年7月21日から8月31日を実施期間とし、「世良田東照宮」や「木崎宿の色地蔵」といった近世の文化財を中心に、市内の文化財所在地や各資料館など合計22箇所にスタンプを設置しました。

参加者は記録的な酷暑のなか、スタンプ帳とガイドマップに載っている地図をたよりに、スタンプを求めて普段はなかなか訪れることのない場所を巡りました。

スタンプを設置した全22箇所のうち、17箇所以上を巡ると修了認定されますが、今回は2,959名の参加申込者があり、その内の1,845名が修了認定されました。

修了者には記念品として、文化財課のマスコットキャラクター「ぶじんくん」のイラストと、縄文時代の土製耳飾の写真が入った特製クリップが贈呈されました。

参加者の皆さんには、スタンプラリーを通して太田の歴史に触れるとともに、家族や友達との楽しい夏休みの思い出づくりになったのではないかと思います。



スタンプ帳とガイドマップ



記念品（特製クリップ）



幟旗とスタンプ設置状況（金山の大ケヤキ）



スタンプラリー実施状況（総持寺）



文化財シンポジウム

- と き 平成23年2月13日（日）
午前10時00分～午後3時00分
- ところ 藪塚本町文化ホール
- 参加者 409名

国史跡「新田郡庁跡」^{ぐんちやうあと}。太田市天良町には「日本最大規模の古代の郡役所庁舎跡」が存在します。

今年度はこの古代の郡役所「新田郡衙」^{ぐんが}と古代の高速道路である「東山道駅路」^{とうさんどうえきろ}をテーマとして文化財シンポジウムを開催いたしました。古代の官衙研究の第一人者である佐藤信先生をお迎えした講演と、同じく第一人者である山中敏史先生をはじめとする研究者の方々によるパネルディスカッションにより、関心の高さから400名を超える多くの方々にご参加いただきました。またこのシンポジウムに合わせて作成した「新田郡衙と東山道駅路予稿集」を配布いたしました。

基調報告「新田郡衙と発掘調査成果」

太田市の埋蔵文化財発掘調査の担当者である小宮俊久が基調報告をいたしました。今年度の調査で判明した新田郡庁の5時期の変遷、新田郡衙の範囲、郡衙外郭溝、東山道駅路武蔵路など、映像を用いながらお話をし、参加者からご好評をいただきました。



新田郡衙・東山道駅路位置図

基調講演「新田郡家と古代東国」

東京大学教授である佐藤信先生から新田郡家（郡衙）^{ぐんけ}についてのお話を中心に、古代の東国についてご講演をいただきました。

特に、新田郡庁が国庁と同規模であるのは、新田郡が東山道駅路が分岐する交通の要衝にあるためであることをご指摘いただくなど誠に興味深いお話をいただきました。

佐藤先生のご講演は、豊富な知識を踏まえた絶妙な語り口による非常にわかりやすいお話でした。

パネルディスカッション

「新田郡衙と東山道駅路」

- ・司 会 山中敏史先生（奈良文化財研究所）
- ・パネラー 佐藤 信先生（東京大学）
坂井秀弥先生（奈良大学）
早川 泉 氏（道路文化研究所）
坂爪久純 氏（伊勢崎市役所）
小宮俊久 （太田市教育委員会）

奈良文化財研究所名誉研究員である山中敏史先生の司会により、ご講演いただいた佐藤先生や奈良大学の坂井秀弥先生らによるパネルディスカッションを行わせていただきました。郡の役所であるにも関わらず国庁級の大きさをもつ「新田郡衙」の重要性や東山道駅路の評価などについて討論していただきました。

古代官衙研究の第一人者である先生方と発掘担当者による論議により最新の研究成果に触れ、参加者も大変満足している様子でした。



ご講演いただいた
佐藤信先生



基調報告をした小宮俊久



講演会会場内風景



企画展示

藪塚本町文化ホールの多目的室において出土遺物や写真を中心とした「新田郡庁跡周辺の発掘調査成果」の展示を行いました。

郡庁跡区画溝から出土した墨書土器^{くかくみぞ}や正倉北群^{ぼくしよ}出土の炭化米の塊などの遺物のほか、郡衙外郭溝^{しょうそう}

や東山道駅路の写真などの画像を中心に展示いたしました。また飯塚聡氏による「奈良時代の新田郡中心部推定復元図」も併せて展示いたしました。



講演中風景



パネルディスカッション



シンポジウムポスター



展示風景



展示した遺物



奈良時代の新田郡中心部推定復元図

文化財めぐり

- テーマ 水運・鉄道の歴史を訪ねて
- とき 平成22年11月28日(日)
- ところ 見沼通船堀^{みぬまつせんぼり} 武蔵一宮氷川神社^{むさしいちのみや ひかわじんじや}
鉄道博物館(さいたま市)

今回は、「水運・鉄道の歴史を訪ねて」をテーマとし、さいたま市を訪れ、国指定史跡「見沼通船堀」、大宮の地名の由来となった「武蔵一宮氷川神社」、鉄道に関わる遺産、資料が数多く展示された「鉄道博物館」を見学しました。

市民の関心も高く、定員を大幅に越える応募を

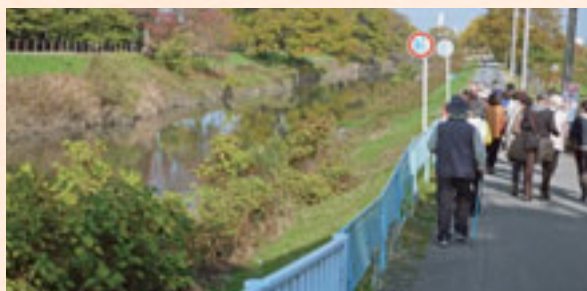
いただきました。

「見沼通船堀」では、江戸時代の運河施設について地元のガイド会の方から解説を受け、天候にも恵まれ、心地よい見学となりました。

「武蔵一宮氷川神社」では、大勢の人で賑わう中を自由散策しました。

また「鉄道博物館」では、鉄道模型ジオラマや、天皇専用車「御料車」^{ごりょうしゃ}の企画展などが開催されており、参加者は熱心に見学していました。

水運・鉄道の交通の歴史に触れ、有意義な一日を過ごすことができました。



見沼通船堀を散策



鉄道博物館・鉄道模型ジオラマ



「はにコレ2010」ータイムスリップおおたー

- 会 場 イオンモール太田 2階イオンホール
- 開催期間 平成22年11月20日（土）～11月28日（日）
- 開催時間 午前10:00～午後8:00（各日とも）
- 展示点数 約600点
- 入場者数 5,753人
- イベント 土日祭日に埴輪キーホルダー作り 参加者 798人



オープニング式典



埴輪の顔



飾られた土器 VS 実用的な土器



中央部分の展示



埴輪キーホルダーの作成風景と出来上がったキーホルダー





じょう うち い せき

城ノ内遺跡

- 調査場所 太田市大島町地内
- 調査期間 平成22年4月8日～5月21日
(平成22年2月から継続)
- 調査面積 約3,000m²

総合太田病院建替え事業に伴う発掘調査で、城ノ内遺跡は金山丘陵から南西方向に延びる台地の縁辺部に立地します。調査区内では北東から南西方向に緩やかに下る地形が捉えられています。古墳時代の住居跡及び中世の土坑・ピット群は調査区北東部の微高地上に集中します。

本遺跡周辺は金山城の出城であったといわれる大島城の推定地とされています。大島城は文献などの記録が一切ないことから詳細が明らかにされておらず、現代に残る地割からその範囲が想定されているだけです。今回の調査では大島城に関連すると考えられる溝（堀）や掘立柱建物跡などがみつかりました。

平成22年10月から、報告書作成作業を実施しています。



古墳時代の土器が出土した土坑



検出された遺構群（北上空から）



きたかんとう じ どうしゃどうかんれん い せき

北関東自動車道関連遺跡

- 調査場所 太田市緑町・東今泉町地内
- 調査期間 平成22年12月1日～平成23年3月25日
- 調査面積 1,550㎡

きたかんとう じ どうしゃどうそくどうせい び こう じ
北関東自動車道側道整備工事に伴う発掘調査で
ふるごおりじょう り せいすいでんあと に あや い せき はち が いり い せき すい
古氷条里制水田跡、二の宮遺跡、八ヶ入遺跡・推
ていとうさんどうえき ろ
定東山道駅路の各道路建設予定箇所で行いまし
た。

奈良・平安時代の水田跡である古氷条里制水田跡の調査区では、畦跡など水田にかかわる遺構等を今回の調査で確認することはできませんでした。

また、古墳時代・平安時代の集落跡である二の宮遺跡の調査区では、住居跡1軒（時期不明）、溝4条（時期不明）、土坑22基（時期不明）、井戸2基（中世以降？）、ピット6基（時期不明）がみつかりました。

そのなかで上端幅3.4～4m、深さ約1.4mの大きな溝跡がみつかりました。北隣でおこなわれた財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団による調査では「池」の遺構がみつっていますが、この溝はその池に接続すると思われます。これらは湧水をためるための「溜井」と、それに接続した「導水路」であり、周辺に用水を供給していたものと考えられます。

旧石器時代の散布地、奈良時代の集落跡である八ヶ入遺跡、奈良・平安時代の道跡である推定東山道駅路の調査区では、住居跡4軒（奈良・平安時代）、溝3条（時期不明）、土坑24基（時期不明）、井戸跡1基（中世以降）、ピット75基（時期不明）、自然の流路がみつかりました。

なお、北隣でおこなわれた財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団による調査では、東山道駅路の南側溝が確認されていることから、今回の調査区では東山道駅路の西側延長部分が確認される可能性がありました。しかし、今回の調査では地山上面が削られていたため、道の痕跡を確認することはできませんでした。



二の宮遺跡でみつかった溜井の導水路（北東から）



二の宮遺跡でみつかった住居跡（東から）



八ヶ入遺跡でみつかった住居跡と出土遺物（南から）



とうぶちく いせきぐん

東部地区遺跡群



全景写真（南から）

- 調査場所 太田市堀口町地内
- 調査期間 平成22年7月21日～8月3日
- 調査面積 約200㎡

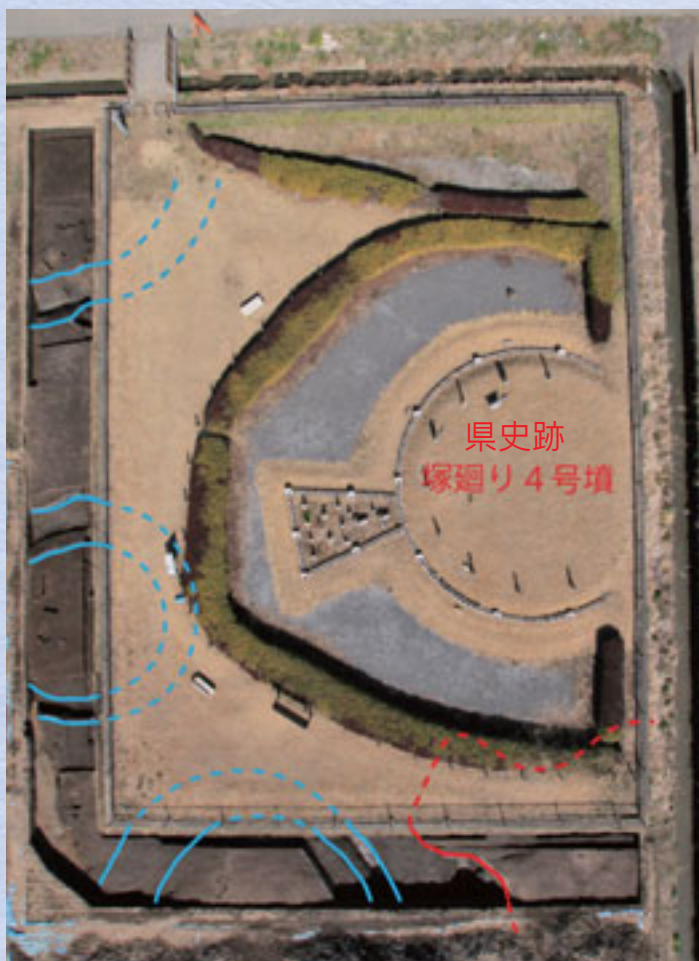
尾島東部土地区画整理事業に伴い、発掘調査を実施しました。

平安時代の住居跡や鎌倉～江戸時代の溝や土坑がみつかりました。

住居跡から、当時の貴重品である緑釉陶器や灰釉陶器の破片が出土したことから豊かな集落であったことがうかがえます。

つかまわ こふんぐん

塚廻り古墳群



空撮写真（上が北）

- 調査場所 太田市龍舞町地内
- 調査期間 平成23年2月1日～3月25日
- 調査面積 約300㎡

県営湛水防除事業（用水路工事）に伴い、県指定史跡「塚廻り古墳群第4号古墳」の周囲を発掘調査しました。

帆立貝形古墳1基、円墳3基と多数の古墳を確認しました。

古い古墳の上に新しい古墳をつくっている形跡が見られ、限られた土地のなかで継続的に古墳をつくっていたことがわかりました。



古墳の周溝からまとめて出土した土器群



出土遺物の整理作業

文化財課では、発掘調査の成果を公開するために、出土した土器の接合・復元作業を行ったり、復元した土器の実測・写真撮影等を行い、発掘調査報告書の作成等を行っています。

平成22年度は、下宿遺跡や岩松千歳2遺跡、北部スポーツ公園内遺跡群、城ノ内遺跡、太田市内遺跡の整理を実施しました。

発掘調査報告書としては、「太田市内遺跡6」を刊行しました。

また、普及事業として「太田市の中世遺物」のパンフレットを刊行しました。



平成22年度 調査地一覧表

No	遺跡名	所在地 (太田市)	確認 調査月	開発 原因
1	鎧着遺跡	鳥山下町	H22.4	民間
2	一町田・堀之内遺跡	新田赤堀町	H22.4	民間
3	細谷東遺跡	細谷町	H22.4	民間
4	向野遺跡	古戸町	H22.4	民間
5	反町城館跡	新田反町町	H22.4	民間
6	FP泥流下遺跡群	尾島町	H22.5	民間
7	東矢島遺跡	末広町	H22.5	民間
8	向野遺跡	高林東町	H22.5	市
9	細谷東遺跡	細谷町	H22.6	民間
10	石橋地蔵久保遺跡	石橋町	H22.6	民間
11	東部地区遺跡群	堀口町	H22.6	組合
12	猿楽遺跡	只上町	H22.6	市
13	鳥ヶ谷戸遺跡	鳥山中町	H22.6	民間
14	新田館跡	世良田町	H22.6	民間
15	今井地区遺跡群	世良田町	H22.6	民間
16	下田島遺跡	下田島町	H22.7	民間
17	東部地区遺跡群	岩松町	H22.7	組合
18	新島遺跡	只上町	H22.9	民間
19	石田川遺跡	米沢町	H22.9	民間
20	FP泥流下遺跡群	世良田町	H22.9	民間
21	細谷東遺跡	細谷町	H22.9	民間

No	遺跡名	所在地 (太田市)	確認 調査月	開発 原因
22	鳥ヶ谷戸遺跡	鳥山中町	H22.9	民間
23	石神遺跡	龍舞町	H22.9	民間
24	谷遺跡	藪塚町	H22.10	民間
25	反町城館跡	新田反町町	H22.10	民間
26	小谷場古墳群	牛沢町	H22.10	民間
27	塚廻り古墳群	龍舞町	H22.10	県
28	細谷東遺跡	細谷町	H22.10	民間
29	浜町古墳群	浜町	H22.11	市
30	下田島遺跡	下田島町	H22.11	市
31	古戸赤城遺跡	古戸町	H22.11	民間
32	林遺跡	新田赤堀町	H22.11	民間
33	雁子遺跡	新田反町町	H22.12	民間
34	天狗林遺跡	由良町	H23.1	民間
35	細谷中遺跡	細谷町	H23.1	民間
36	国済寺城跡	市場町	H23.1	民間
37	三島遺跡	藪塚町	H23.1	民間
38	川久保遺跡	新田下田中町	H23.2	公社
39	中原下遺跡	藪塚町	H23.2	民間
40	東今泉鹿島遺跡・鹿島浦遺跡	東今泉町	H23.2	公社
41	小町田遺跡	龍舞町	H23.3	民間

開発にかかわる調整 平成22年度 事前協議・照合件数および調査面積

	公共事業	民間事業	計
事前照合・協議	58件	1,369件	1,427件
本発掘調査	2件	3件	5件
確認・試掘調査	7件	34件	41件
学術調査	4件	0件	4件
立会調査	20件	9件	29件
慎重工事	0件	237件	237件
確認・試掘調査面積	629.0㎡	3,984.8㎡	4,613.8㎡
立会調査面積	2,551.7㎡	43.3㎡	2,595.0㎡
本調査面積	1,850.0㎡	3,207.0㎡	5,057.0㎡
学術調査面積	2,327.2㎡	0.0㎡	2,327.2㎡

※学術調査面積は、天良七堂遺跡・史跡新田郡庁跡・史跡金山城跡・新田荘遺跡江田館跡の4遺跡。





樹木環境整備

- ^{いちば}市場の大ケヤキ（市指定天然記念物）
平成22年7月、市場の大ケヤキの支柱が傷んでいたため、新しい支柱を設置する工事を行いました。
- ^{なかじま ちくへいてい}中島知久平邸（市指定重要文化財）
平成23年2月、中島知久平邸の西側の樹木群について、周辺道路の安全を確保するため、剪定を行いました。
- ^{にったのしょう い せき そりまちやかたあと}新田荘遺跡・反町館跡（国指定史跡）
平成23年3月、反町館跡の南側、水堀にかかる樹木群について、倒木等の危険を防ぎ、安全性を確保するため、伐採、剪定を行いました。



市場の大ケヤキ



中島知久平邸



反町館跡

文化財模擬火災訓練

昭和24年1月26日に国宝の法隆寺金堂壁画が焼失しました。このことから毎年1月26日を「文化財防火デー」と定め、全国的に文化財防火運動が実施されています。太田市でも、毎年、この日に近い日曜日に「文化財模擬火災訓練」を実施しています。

今年度は、平成23年1月23日に別所町の円福寺・^{えんぷくじ}十二所神社境内で実施しました。ここは、新田荘遺跡として、国史跡に指定されています。

訓練は、午前10時からこの円福寺北西林野より出火という想定で開始、消防本部・消防団・関係者・地元住民の協力のもと、初期消火作業、文化財の持ち出し、水圧で消火するインパルス銃での消火活動、一斉放水などの消火訓練が行われました。



インパルス銃での消火



一斉放水



新田荘歴史資料館

第2回 企画展 4月24日(土)～6月6日(日)

「上武国境争論裁許絵図展～利根川の洪水の軌跡」と題して、市域の境界変更が行われた年に市内に残る3点の国境争論裁許絵図に焦点をあて、利根川の流路変遷と上野・武蔵の国境変遷を通してこの地域の歴史を改めて振り返ってもらう機会として企画しました。入館者1,461人



講演会 澤口氏



展示の様子



解説会 諏訪館長



ポスター

内 容	演 題	月 日	講 師	参加者数
講演会	利根川の洪水と河道の変遷	5月16日(日)	澤口 宏氏 (群馬地理学会会長)	72人
解説会	上武国境争論裁許絵図展資料解説	5月30日(日)	諏訪和雄館長	30人

第2回 長楽寺展 10月16日(土)～11月28日(日)

第2回長楽寺展「新田荘の仏像」では、長楽寺をはじめとする新田荘地域に守られてきた仏像を一堂に展覧し、地域を考え造形を楽しみ、地域を誇る契機としていただくために企画しました。入館者1,768人



講演会 築瀬氏



展示の様子



現地見学会の様子



ポスター

内 容	演 題	月 日	講 師	参加者数
講演会	新田荘の仏像－何を伝えているか！	10月23日(土)	岡部 央氏 (太田市文化財審議会委員)	72人
	赤城南麓の信仰世界と長楽寺	11月6日(土)	築瀬大輔氏 (群馬県立博物館学芸員)	30人

内 容	月 日	講 師	参加者数
現地見学会	10月30日(土)、11月8日(月)、11日(木)	岡部 央氏 (太田市文化財審議会委員)	51人



正月特別展示

平成22年度に新たに寄託された八坂神社（世良田町）の狛犬像を正月特別展示として公開しました。

この狛犬像は、鎌倉時代中頃に制作されたものです。寄木造、玉眼嵌入で阿形像と吽形像からなり、鎌倉時代の写実的な迫力を遺憾なく表わす優品です。

狛犬像（左：吽形、右：阿形）



夏休み体験学習

教育普及事業としては、子供たちに文化財に対する関心を抱いてもらうきっかけづくりとしての、埴輪づくり教室や勾玉づくり教室を開催しました。

〔埴輪づくり教室〕

●平成22年7月28日（水）・29日（木）

約30センチの武人埴輪を作製

参加者数 16人



埴輪づくり教室の様子

〔勾玉づくり教室〕

●平成22年8月18日（水）～22日（日）

計5日間

参加者数 98名



勾玉づくり教室の様子

講座

〔第1回土曜講座〕

●2月12日（土）午後2時から

演題 太田の古代史―天良七堂遺跡と古代の新田郡

講師 磐下徹先生（関東学園大学専任講師）

参加者数 81人



土曜講座の様子

〔第2回土曜講座〕

●2月26日（土）午後2時から

演題 新田荘の成立

講師 久保田順一先生

（群馬県地域文化研究協議会副会長）

参加者数 98人



土曜講座の様子



縁切寺満徳寺資料館

特別展 4月24日(土)～6月6日(日)

「江戸の子育て—第2回日本の父道と胎教論^{たいきょうろん}—」と題して、江戸時代の男性は子どもが一人前になるまでの長期にわたって子育ての全責任を負っていたことや、男性こそ率先して胎教を学び女性に教え込むことなど、現代以上に胎教や出産育児など子育てに大きく関わっていたことを紹介し、関連文書を展示しました。あわせて「江戸の子育て」論などの著書を持つ小泉吉永先生に講演していただきました。

入館者 1,760名



解説の様子



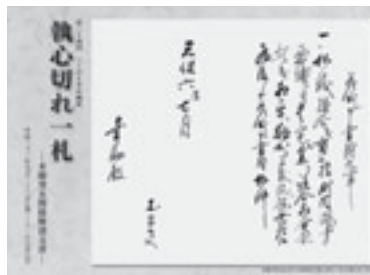
第24回 三くだり半企画展 9月23日(木)～11月7日(日)

第24回三くだり半企画展では、夫婦間の離婚で交わされた離縁状^{りえんじょう}と違い、未婚の男女関係に交わされた「執心切れ一札^{しゅうしんきり いっさつ}」について取り上げましたが、特に女性の差し出した執心切れの事例、男女で交換した事例など当時の男女関係を見直すことを目的としました。その他、ある妻子持ちの男性と未婚女性の関係やそれにまつわる噂話、さらにはその後の顛末など具体的な事例とともに関係文書等を展示しました。

入館者 2,223名



展示の様子



ミニ企画展

企画展名	期間	入館者数
三くだり半この一点「代筆された離縁状」	6月20日(日)～7月19日(月)	815人
ミニ企画展「江戸の判じ絵 ^{はんじえ} 」	7月21日(水)～8月31日(火)	2,679人



徳川大学公開講座

内 容	演 題 ・ 演 目	月 日	講師・出演者	参加者数
講演会	「日本の父道と胎教論」	5月9日(日)	小泉吉永氏（法政大学講師）	62人
大衆文化講座 「いろいろ」	粹曲・バラエティ・マジック	5月20日(木)	柳家紫文氏・東京ガールズ・ 伊藤夢葉氏・中津川弦氏	100人
講演会	「網野善彦・人と学問」	6月5日(土)	山本幸司氏（静岡文化芸術大学教授）	73人
大衆文化講座 「地唄」	端唄・小唄・新内・上方唄	6月25日(金)	西松布詠氏（西松流家元）	65人
講演会	「執心切れ一札について」	10月3日(日)	高木 侃 館長	33人
伝統文化講座 「琵琶」	かぐや姫・極楽の鳥たち 恩讐の彼方に	10月24日(日)	荒井姿水氏（錦心流中谷派） 中村美子氏	97人
講演会	「徳川将軍の妻たち」	11月20日(土)	山本博文氏（東京大学大学院教授）	129人



「いろいろ」柳家 紫文 氏



東京ガールズ



「地唄」西松 布詠 氏



「琵琶」荒井 姿水 氏



小泉 吉永 氏



山本 幸司 氏



高木 侃 館長



山本 博文 氏

高 山 彦 九 郎 記 念 館

企画展「彦九郎の肖像」

- 期 間 4月3日（土）～6月27日（日）
高山彦九郎の描かれている資料を館収蔵を中心に35点、展示しました。
- 入館者 564人



展示の様子

企画展「彦九郎とみやげもの」

- 期 間 3月26日（土）～ 次年度につづく
高山彦九郎日記にみるみやげものを誰にどのように贈ったのかを明らかにし、交流関係や当時の生活、時代背景を浮き彫りにする企画をしました。



展示の様子



講演会

- 日時 6月12日（土）午後2時から
- 演題 「彦九郎最後の旅ーその背景を探るー」
- 講師 八木清治氏（武蔵大学教授）
- 参加者 195人
- 会場 宝泉行政センター

先生より彦九郎「九州の旅」の目的として「京都の大学設立を目的とした九州各地の藩校視察」という新たな見解が示され、彦九郎像に新たな視点が加えられました。



八木 清治 氏

学習会・視察

〔学習会〕8月21日(土)

- 講師 正田喜久氏（高山彦九郎研究会会長）
- 会場 高山彦九郎記念館

〔視察〕9月6日(月) 参加者数33人

- 行先 海野宿（東御市：矢嶋家）、熊野神社、
追分宿郷土館ほか

彦九郎日記「乙未の春旅」「上京旅中日記」「天明下向日記」「北行日記」の足跡を訪ねる学習会・視察を実施しました。



視察の様子 海野宿にて

藪塚本町歴史民俗資料館

当館は、藪塚温泉今井館主であった今井新次氏が、県内外から収集した埋蔵文化財などを旧藪塚本町に寄贈したことにより、昭和53年に開館しました。

石田川式の型式資料となった土器や街道橋古墳の陶棺、市内から出土した各種埴輪、その後の発掘調査で出土した石之塔遺跡（縄文時代後・晩期）の土製耳飾や岩版のほか養蚕関係を中心とした民具を展示しています。

現在、常設展示の一部を変更し、「新田郡庁跡周辺関係資料」を展示しています。また「太田市の古墳」等の文化財紹介映像を上映しています。



展示の様子



史 跡 金 山 城 跡 ガ イ ダ ン ス 施 設

体 験 学 習

まがたま教室

- と き 平成22年7月～9月、10月～3月
- ところ 体験学習室1
- 参加者 254名

体験学習室1において実施している、来館者が短時間で気軽に体験できる教室。受付時間は午前9時～10時30分、午後1時30分～3時30分となっており、有料にて体験できるようになっています。今年度は、夏休みをはさんだ7月～9月の時期に集中して利用されていました。リピーターも多く、親子での参加も多数みられ、好評を得ています。



グループでの参加風景



集中しての作成風景

.....

草木染め教室

- と き 平成22年4月29日、6月26日、8月21日、10月23日の4回にわたり実施。
- ところ 体験学習室2

体験学習室2を利用して、今年度初めてこの講座を開催しました。染色に精通した板野千恵先生を講師に迎え、桜の木、バラ、藍、ワレモコウを使用した染色を実施し、延べ40名の参加がありました。草木染めの体験講座を希望する人は予想以上に多かったため、講座に参加した人たちが自主的に活動できるグループも結成されるようになりました。



板野千恵先生と染色作業風景

歴 史 講 演 会

第3回金山歴史講演会

- と き 平成23年2月19日（土）
- ところ コミュニティルーム
- 講 師 峰岸純夫 先生
- 演 題 「金山城と享徳の乱」
- 参加者 106名

応仁の乱より先に始まった関東の享徳の乱。戦国時代の幕開けとなる享徳の乱とそこに息づく金山城主岩松氏の周辺の様子について、難しい資料を使いながらもわかりやすく講演していただきました。



峰岸純夫先生



講演に聞き入る参加者



ギャラリー展示

しょうそういんほうもつふくげんばち る てん
正倉院宝物復元撥鏤展

●と き 平成22年10月10日～11月28日

●来場者 3,746名

金山町にお住まいの村松親月氏が、正倉院の宝物である撥鏤の尺2点や撥1点、梟子（碁石）10点を復元したものを展示しました。唐の時代に伝わってきた、象牙を染色して彫刻する撥鏤技法について、長年研究してきた成果を製作工程などの写真パネルと合わせて展示しました。先生は、奈良国立博物館にも同じものを寄贈し、同館においても企画展示などが開催されています。撥鏤技法については、伝承等の記録が残されていないため、復元に当たっては象牙の種類や部位、染料の種類、また染色する際の温度や時間等についての地道な研究が必要でした。門外不出の正倉院宝物を展示ケース越しに見入って、その色調の美しさに魅了され、その色に近づけるための復元の苦労が展示に表れていました。



村松 親月先生



撥鏤技法のパンフレット



展示された製作工程



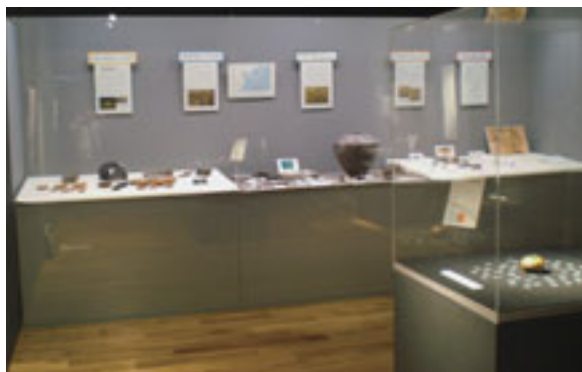
撥鏤の撥の展示（下にガラスを置いて裏面も見せている）

中世の生活展

●と き 平成22年7月～9月、10月～3月

●来場者 106名

金山城とその周辺に暮らしていた人々の生活を紹介するために、金山城跡の発掘調査で出土した遺物を中心に、次の6つのテーマに分けて展示しました。①中世の調理具と供膳具、②他地域との交流、③お茶を楽しむ、④生活用品ー今・むかし、⑤金山城と戦、⑥祈りー人々のこころ。見学者は金山城より出土した遺物を見ながら当時の生活に思いを馳せていました。



展示ケース内に並べられた金山城の遺物

ホームページの開設 平成23年2月23日開設

- 太田市ホームページ・文化財課・史跡金山城跡ガイダンス施設ホームページより
史跡金山城跡ガイダンス施設のご案内や、講座や講演会、ギャラリー展示などがご覧いただけます。



記念館・資料館 紹介



名 称	住 所	電話番号	入館料	開館時間	休館日
新田庄歴史資料館	世良田町3113-9	0276-52-2215	200円	9:30～17:00	月曜日 ※休日にあたる場合は翌日
縁切寺満徳寺資料館	徳川町385-1	0276-52-2276	200円	※各館とも	
高山彦九郎記念館	細谷町1324-7	0276-32-5632	100円	16:30までに	
藪塚本町歴史民俗資料館	藪塚町149	0277-78-5728	100円	入館	
史跡金山城跡ガイダンス施設	金山町40-30	0276-25-1067	無料	9:00～17:00	

※4館共通券300円